

121114 晩秋の蛾 (カ)

11月に入り、随分寒くなってきました。

里山を歩いているだけでも、晴れた昼間の暖かな時間帯を除いて、昆虫に出会う機会は減ってきました…

でも、まったくいなくなっただ、という訳ではありません。

よく探してみると、葉っぱの裏側に隠れていたり、木の皮などに擬態していたり…

今回は、そのような昆虫の中から「蛾」を選んでみました。

“蛾は気色悪い〜”と言われる方も、寒さにじっと耐える彼らの姿を見れば…、と思って接写してみました。逆効果だったかも知れませんね。

◆写真①～③： ヒメヤママユ

◇晩秋(10～11月)に羽化する大きな蛾で、羽を広げると100mmほどにもなります。

◇【1枚目】

- ・後頭部をくっつけた「馬」が2頭いるように見えませんか？
- ・写真では分かりませんが、下の羽にも眼状紋があります。

◇【2枚目】

- ・雄の触角は羽毛状、雌は両楯歯状ですので、この個体は雄ですね。
- ・蛾の仲間は、雌がお尻の先から性フェロモンを出し、雄はそれを触角で感知して雌を探し当てています。
- ・ですから、雄の触角は雌に比べて枝分かれが多く、大きいのです。
- ・それにしても、寒い時期に羽化する種だけあって、かなり毛深いです…

◇【3枚目】

- ・横から撮影してみました。
- ・何か、ぬいぐるみの「クモ」みたいな感じです…

◆写真④・⑤： ミツモンキンウワバ

◇夏(7～8月)と晩秋(10～11月)に羽化する蛾で、羽を広げると35mmくらいです。

◇前羽の「白い紋」と「金色の鱗粉」が命名の由来ですが、この個体はあまり金色がわかりません。(幼虫は大豆やニンジンの葉を食害するようです)

◇5枚目の写真は正面から撮影したのですが、頭に扇子を乗せているみたいですね…

◆写真⑥・⑦： キノカワガ

◇成虫で越冬する種で、羽を広げると20mmくらいです。

◇木の幹や石などに“同化”して、春まで過ごすようで、冬の間、いつ見ても同じところにいることが多いです。(動かずにひたすらじっとしています)

◇7枚目は横から撮影したのですが、薄っぺらな体ですね。

◆写真⑧： ケンモンミドリキリガ

◇この種を見かけるようになると、もう秋も終わりに近づいた、という感じです。

◇キリガ類は秋の蛾で、越冬する種類も多いのですが、本種は卵で越冬するようです。

◇それにしても木の幹に生える苔と模様が似ていますね。(撮影個体はトンネル内にいました)















